

令和5年度 第1回 逗子市健康増進・食育推進計画懇話会 概要

日 時：令和5年5月26日（金）午後2時00分～4時00分

場 所：逗子市保健センター 大会議室

出席者：

【市民メンバー】 池田 カツエ、村松 雅、渡邊 喬

【関係団体】 秋本 浩幸（公益財団法人逗葉地域医療センター）、
中川 晴美（公益財団法人逗子市スポーツ協会）、
山口 忍（食生活改善推進団体若宮会）、
杵山 英廷（逗子市立小学校長会）

【アドバイザー】 北岡 英子（湘南鎌倉医療大学 看護学部公衆衛生看護学領域 教授）
駿藤 晶子（神奈川県立保健福祉大学 保健福祉部栄養学科 准教授）

【事務局】 廣末次長、青山副主幹、有賀係長、角田、竹内、伊藤、武藤

議事概要：

1 開 会

2 議 題

（1）リーディング事業等の評価について

下記項目について事務局より報告。

- ① 健康づくり推進事業
- ② 地域医療充実事業
- ③ 成人等保健事業
- ④ 特定健診・特定保健指導事業
- ⑤ 総合的病院誘致事業
- ⑥ 個別計画進行管理総括－1
- ⑦ 個別計画進行管理総括－2

<アドバイザーより>

⑤について、目標が「病院の開設」であれば、結果は「できていない」になってしまう。

追加記載で「できていること」を書いたらどうか。こういう目標の立て方は経過の評価ができないため、「病院の開設」を目指す理由や内容を明記した方が良いのではないか。

<事務局より>

「病院の開設」はできていないため、評価としては「達成できていない」とする。

地域の医療体制充実に向けた検討等、推進してきた部分は別途記載を検討する。

<メンバーより>

市民の立場から、この議論は市民の命を守れるのかという大きい枠組みでの議論だと認識している。この議論が引き続きなされることを期待する。

<メンバーより>

⑥⑦について、「コロナ」が影響するのはここ数年のみ。コロナ禍の学びが次の計画に生かされると良いが、そのあたりはどうか。

<事務局より>

コロナ禍の受診控えで健診（検診）の受診率が低下した。受診率を取り戻し、向上させるために、今年度から特定健診を無料にする他、受診勧奨通知の工夫などの施策を行った。

また、コロナ禍でもできる健康増進施策として、オンラインやアプリを活用した取り組みを推進した。アプリを活用した事業では、これまでアプローチが困難だった40・50代や、無関心層へのアプローチができた。コロナ禍に始めた取り組みが、健康増進事業の柱になりつつある。今後それらがどのように健康増進につながったか注視していきたい。

<アドバイザーより>

8年前の計画策定時、コロナの想定はもちろんない。状況に応じた変化はあって当然。現状を踏まえて変えていった経過を、評価にも反映し、総括コメント内にも記載して良いのではないかと。「できた」「できない」のみでなく、経過の中で工夫したことや、次の計画に繋げていく表現があると良いと思う。

<アドバイザーより>

川崎市麻生区は、男女共に平均寿命日本1位になりニュースで取り上げられていた。

坂道が多い地区でもあり、必然的に運動もでき、健康意識の高い地区である。

「自分の健康は自分で守る」ということを推進するためにも、食事が大事であり、そうしたことが食育につながっていく。また、推進のために、市民が直接出会える場所で、食事や栄養に関するプチ講座ができると良い。

計画策定にあたってのアンケート結果から見えたことについて述べる。

①市の企画したものが届いていない層がいることが浮き彫りになった。

一方的な発信だけでなく、家から出たときに逃がさずキャッチできるような啓発や、簡単な講話を行うなどの工夫が必要。

②食事・栄養・食育に関しては、青年期・壮年期・高齢期の人課題として出てきた。

県立保健福祉大学では、食生活チェック・免疫チェックができるコンテンツがある。

そういったコンテンツも使っていくと良い。

<メンバーより>

市内で月1回みんなの食堂をしている。はじめは子ども食堂のようなものだったが、今は地域住民の誰でも参加可能。手作りコロケを提供したり、絵本読み聞かせや、制作活動をしている人もいる。そうした市民が集う場の重要性を感じている。

<メンバーより>

一人当たり医療費の記載金額が増加しているのに「達成できた」になっている。

「県平均を下回った」等この書式のみを見てわかるように記載を変えてはどうか。

<メンバーより>

「未病センター」ということで、逗子アリーナでも健康相談を受けている。市で指導を受けた人が、アリーナに運動をしに行くなど、連携を強化していけたら良い。

<アドバイザーより>

コロナ禍の3年間、色々な変化があった。その間に工夫して事業を展開してきたことを、評価の中に記載すると良いだろう。

(2) 計画の進行管理について

<事務局より>

(進行管理について内容を説明)

今後取り組むテーマについて、年次評価の方法や指標についてご意見うかがいたい。

<メンバーより>

事務局が記載した資料で、市全体と国保健康課のみのことと違いを教えてください。

本会で意見した内容は、市の事業へ反映されるのか。

<事務局より>

年次評価(案)に記載した事業は、すべて国保健康課が担当している。我々が事業担当者なので、本会でいただいたご意見を具体的に反映できる。

<メンバーより>

プロセス評価の「指導手段」という言葉について。「指導」という表現は限定的な印象なので検討してほしい。また、アウトカム評価の「自信度」だが、この表現をアンケートなどで使用しても「はい(自信がある)」と答える人は少ないと思う。「今までよりも分かってきた」などの表現に変更してはどうか。

<アドバイザーより>

計画冊子 P.68～の既存事業の整理が「お役所目線」である。市民目線で理解できるのは、P.75～77「今後取り組むテーマ」のみになる。評価としては、3つのテーマに向けて何をしているか、テーマに沿った事業はどれか、という書き方にしないと理解できないのではないか。

<市民メンバーより>

「今後取り組むテーマ」の一番右「実施時期・期間」はどこの評価に反映されるのか。

<事務局より>

ラジオ体操で言えば、年次評価(案)11の「健康づくり教室」に該当する。

<アドバイザーより>

市民が見たときにそこが分かりにくい。整理の仕方として間違っているわけではない

が、市民目線のテーマに沿った事業の記載でないと分からない。

<事務局>

ご指摘の通り。「今後取り組むテーマ」ごとにどのような取り組みをしていたのか、テーマに沿った記載に変更し、改めてお示ししたい。

今年度の懇話会の設定が年度2回になっているため、次回懇話会までの間に書面などでメンバーへご意見をうかがうことになると思う。ご協力をお願いしたい。

3 その他

<メンバー（関係団体）より>

（逗葉地域医療センターより）

今年度、特定健診の受診者負担を無料にした。受診率の変化だが、昨日（5/25）までの人数は下記のとおり。もう少し多いと思った。より周知に力を入れた方が良いと思われる。

	令和4年度(4月～5月末)	令和5年度(5/25現在)
集団健診（受診者数）	141人	178人
個別検診（受診者数）	217人	234人

（逗子アリーナより）

新規の利用者も増えてきている。うみかぜクラブの会員も一時より増加。来る方は熱心で意識が高い。そうでない方へ向けてきっかけ作りをしていきたい。

アリーナでも市の事業をやってもらえると、アリーナの認知度が上がり、利用につながると考えている。

（小坪漁業協同組合より）

10年前のテーマとずいぶん進歩した。「食育とは」というところからのスタートだった。

自身も食事と運動の重要性を実感している。コロナ禍で運動を怠っていたところ、血液検査数値が悪化した。運動が健康に良いと実感した。今後より勉強して臨みたい。

（若宮会より）

男性の料理教室では、会社を定年退職した後の男性が多く参加している。仲間作りの意識や、料理を覚えて減塩を意識して実践するなど関心する。

現在調理実習などの講座は、募集するとすぐ埋まる状況。ヘルスマイト養成講座は、受講後に若宮会へ加入する方が少なかったが、今年度は期待している。

（逗子市立小学校長会より）

今後取り組むテーマに小中学校の内容もあり、教育分野が担う割合も大きいと感じている。年を重ねてからの健康習慣の見直しも重要だが、「三つ子の魂百まで」という言葉もあるように、小さい時からの積み重ねも重要である。

<アドバイザーより>

この会の雰囲気と今後取り組む内容について理解が深まった。他自治体でも計画のアドバイザーをしているが、自治体の人口規模が大きくなると、計画や会議体が形骸化してしまうことが多い。逗子市の規模だからこそ、一人ひとりの意見が反映されると良い。懇話会は年2回と少ないが、市全体で計画を推進し、集まりの場で各々の実践状況などについてもご意見をいただけたら、より良くなると思う。

以上